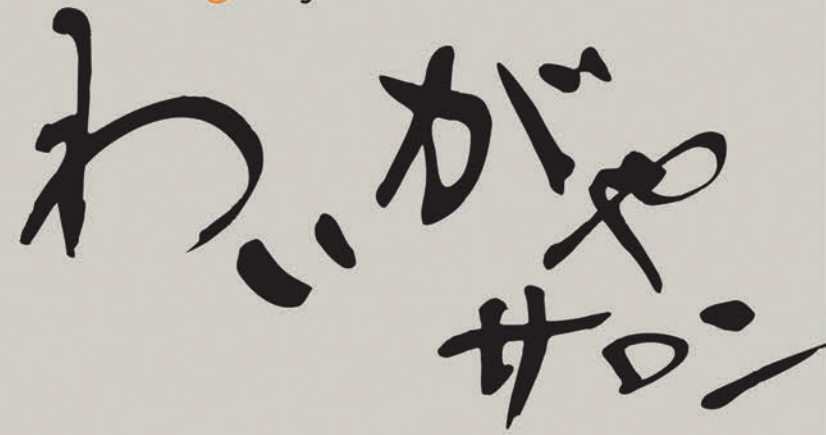


- 第1回/佐倉 一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
- 第2回/久米 えみさん ながのクラッセ会長 樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回/鷺沢 幸一さん アスレながの事務局長 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
- 第4回/清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター
- 第5回/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ健康セラピスト
- 第6回/竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長【一級建築士】
- 第7回/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回/荻原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回/松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
- 第10回/松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回/浜 このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回/角本 浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長
- 第13回/針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回/水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回/バドゥ・ヒエイラ監督・薩川了洋コーチ・貞富信宏キャプテン
- 第16回/町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回/塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 株式会社水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回/小出 陽子さん (同)ふきっ子的お八起代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回/宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
- 第21回/志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころらしょ 代表理事
- 第22回/薩川 了洋さん AC長野パルセイロ新監督
- 第23回/石沢 一男さん (有)田舎工房 代表取締役
- 第24回/新谷 志保美さん バンクーバーオリンピック代表 竹村製作所 勤務
- 第25回/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 システックス所属
- 第26回/鈴木 政一さん 長野パルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回/千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回/川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表
- 第29回/安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長・緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)
- 第30回/マブソン 青眼さん 俳人・比較文学者
- 第31回/井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
- 第32回/田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役
- 第33回/飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166/バックパッカーズ」運営
- 第34回/相原 哲さん ながの町神輿連合会武蔵会 会頭
- 第35回/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務
- 第36回/薩川 了洋さん AC長野パルセイロ監督
- 第37回/小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員
- 第38回/塩澤 研一さん 農業生産法人株式会社水輪ナチュラルファーム代表取締役(財)いのちの森文化財団 副代表理事
- 第39回/因田 達男さん NTT東日本 長野支店長
- 第40回/山田 隆さん しなの鉄道株式会社 専務取締役
- 第41回/藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家
- 第42回/矢澤 秀成さん 園芸研究者/ながの花と緑そして人を育てる学校校長
- 第43回/近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長
- 第44回/栗田 貞多男さん 写真家
- 第45回/鴨志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長
- 第46回/天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授
- 第47回/美濃部 直彦さん AC長野パルセイロ監督
- 第48回/丸田 勉さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長
- 第49回/浅野 邦子さん 株式会社第一 代表取締役会長
- 第50回/平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー

- 第51回/本田 美登里さん AC長野パルセイロ・レディース監督
- 第52回/小田 與之彦さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長
- 第53回/廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長
- 第54回/羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役
- 第55回/中島 麻希さん 1級フードアナリスト
- 第56回/齋藤 安彦さん 宮司
- 第57回/屋敷 陽太郎さん NHKチーフプロデューサー
- 第58回/平山 優さん 歴史研究者
- 第59回/西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー
- 第60回/広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表
- 第61回/浅野 哲也さん AC長野パルセイロ監督
- 第62回/中島 恵理さん 長野県副知事
- 第63回/服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー
- 第64回/平尾 勇さん 長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)
- 第65回/野池 裕子さん ダイヤモンド・セルフ長野ファースト 代表・講師
- 第66回/愛甲 宏明さん 炭平コンピューターシステム株式会社 代表取締役社長
- 第67回/坂橋 克明さん フリーパーソナリティー
- 第68回/宮下 秀樹さん 株式会社守谷商会 執行役員・国立長野高専客員教授
- 第69回/金田一 真澄さん 公立大学法人 長野県立大学 学長
- 第70回/笹本 正治さん 長野県立歴史館 館長
- 第71回/山本 克也さん 長野市芸術館 総支配人
- 第72回/AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極 一じ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第73回/山浦 直人さん 土木・環境しなの技術支援センター理事・長野県立歴史館客員学芸員
- 第74回/松本 克幸さん 協栄電気興業株式会社 取締役副会長
- 第75回/大室 悦賢さん 長野県立大学グローバルマネジメント学部教授/ソーシャルイノベーション創出センター長
- 第76回/AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極 一じ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第77回/水間 源さん 東御市役所 地域おこし協力隊
- 第78回/小澤 吉則さん 一般財団法人 長野経済研究所 理事・調査部長
- 第79回/AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極 一じ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第80回/森田 舞さん ゆめサボママ@ながの 共同代表
- 第81回/新井 精一さん 千広建設株式会社代表取締役
- 第82回/竹内 伊吉さん 大成産業株式会社代表取締役社長
- 第83回/AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極 一じ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
- 第84回/シュタルフ 悠紀 リヒャルトさん AC長野パルセイロ監督
- 第85回/若林 健太さん 衆議院議員
- 第86回/越原 照夫さん 株式会社まちづくり長野 常務取締役
- 第87回/FT Naked(エフティー・ネイキッド):林 保之・林 栄一・寺沢 雄一郎・中田 寿寛・長谷川 裕晃
- 第88回/荒井 雄彦さん シノラス株式会社 代表取締役



通信

Vol. 89
2023.7



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所



すずき りゅうじ
1967年生まれ。立教大学卒業後、長野県庁に7年勤務。1998年、鈴木土地株式会社に入社し、現在に至る。好きな言葉は「面白きこともなき世を面白く」



第11回花遊歩

連日にわたって厳しい暑さが続く文月中旬の宵——わいがやサロンは初の2本立て構成による講演です。

テーマ1 牛に引かれて12年 ～花遊歩と私～

講師/鈴木 隆治さん NUPRI 事務局次長/鈴木土地(株) 代表取締役社長

「花遊歩」誕生のきっかけ

NUPRIが11回(足掛け12年)にわたって主催・実施したイベント「花遊歩」が幕を下ろしました。開催に際し、ご理解・ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。まず、去る5月4日に行われた「花遊歩」の記録ビデオをご覧ください。

私がNUPRIの会員となって……2010～11年のころですかね、NUPRI内に沈滞した雰囲気を感じました。それを打破すべくイベントをやろう、やるなら長野市に観光客を呼び寄せられるイベントだと内心決意し提案しました。「NUPRIがやるべきことはイベントじゃないんじゃないか」という意見もありましたが、賛成してくださる方もいて何とかイベント開催にGOサインが出ました。

では具体的に何を、と思案中の2011年9月28日、わいがやサロンにお呼びした井上裕子信毎編集委員(当時)が「Waを生かしたまちづくり」という講演で「門前町・長野はキモノが似合う町。NUPRIでキモノにまつわるイベントを」と締めたのでした。それでハタと浮かんだのが、古くから全国的に知られる「牛に引かれて善光寺参り」のフレーズ。説話にある「不信心のお婆さんが」というのは置いておいて、キモノ姿の女性が牛に引かれて善光寺参りするのはどうだろう、と。アイデアはいいけれど、人を引き連れる本物の牛はどこにいる? 救世主は当時の市川浩一郎理事長でした。松代町が御開帳の際に奉納する回向柱行列の先導役が牛

テーマ2 夢の6大マラソンを振り返って、普通は知らない世界をご紹介します

講師/鷲澤 幸一さん NUPRI 副理事長/炭平コーポレーション(株)代表取締役社長

実はチャリティランナーがほとんど

現在58歳です。42歳のとき、ダイエットの手段としてランニングを開始し、翌年、長野マラソンに出場・完走してから15年経ちました。国内外の大会で走ってきた中でも、世界に名高く、大規模な6大会、アボット・ワールドマラソンメジャーズ(AWMM)についてご紹介します。

AWMMは、以前はボストン、ロンドン、ベルリン、シカゴ、ニューヨークシティの5大会だったところに東京が仲間入り(2013)して6となりました。アボットは医療メーカーで6大マラソンのタイトルスポンサーです。各大会は主催者である保険会社や銀行、車・スポーツ用品メーカー等の冠が付き、東京だけは付いていません(主催:(一財)東京マラソン財団)。

アボットがしていることは6レースランキング上位者への賞金授与、一般ランナー含めたデータ管理。ネットでAWMMの最新情報を紹介し、出場者にはアカウントを作成、常時見ることが出来ます。参加者数最大はニューヨークシティ約5万6千人。今年4月に私が参加したロンドン約5万人。実はどの大会も一般ランナーのほとんどはチャリティランナーです(抽選に当たって参加できる人もいます)。チャリティランナーとは慈善団体への寄付を約束することで出場枠が割り当てられる仕組み。ロンドンの場合、寄付の最低額は20～30万円台。この仕組みのお陰があるから地元自治体も協力を惜しまないわけです。*東京もWMMに倣って2011年から導入(10万円以上)。

観光名所を巡るコース

写真はニューヨークシティマラソンのスタート風景——ひと目でニューヨークだと分かりますよね。こういうことが大切なんです。ロンドンならバッキンガム宮殿、ベルリンならブランデンブルグ門……。観光名所が起点終点やコースだと、新聞等の写真一コマ、TVの瞬間



わしざわ こういち
1965年生まれ。2001年7月より炭平コーポレーション株式会社代表取締役。2008年マラソンを始める。2023年4月のロンドンマラソンでSix Star Finisher とマラソン50本完走を達成



6大会完走証者に送られるメダル

であり、その牛の飼い主である村山義治さんは友人だということで紹介していただき、イケルとなったわけです。

花遊歩の軌跡

とは言うものの市街地を大勢が牛とともに歩くとなるとクリアすべきこと山のごとし。長野市、善光寺、商工会議所、中央通り商店会等々との調整をして「門前まち花遊歩 牛に引かれて善光寺参り」と銘打ち、実施したのは翌年9月。猛暑が続いていたため参加者(55人)、善光寺聖、スタッフとも浴衣OKにしました。

幸い回を重ね、第6回から単に「花遊歩」に。実施にあたっては3つの約束を守りました。①牛に引かれて善光寺へ行く②山門にて善光寺関係者より答礼③大本願尼公上人より御垂示。尼公様が当イベントを大層喜んでいてと知って、また大切な品々をご披露してくださるたびに涙が出るほど嬉しかったですね。

花遊歩の挑戦

挑戦その1——2016:「信州着物の似合うまちネット」と共催し「信州きものデー」を開催。この際、長野電鉄さんの協賛を得て特別切符にて長野・須坂(須坂クラシック美術館の大虫干し会等)を周遊。その2——2017:宿坊宿泊。その3——2018:JR東日本「大人の休日倶楽部」とタイアップ。東京での講座3回は満員でしたが別日で行った「花遊歩」への首都圏在住の女性参加は苦戦。その4——2019:アルピコとタイアップし長野・上田方面周遊を計画(中央通りをホコ天にできず無念の中止)。



花遊歩で学んだこと

イベントを定期的に開催する重要性/多くのご協力があった初めて実施できることを学ばせてもらいました。実は村山さんはご高齢のため昨年で最後のはずでしたが、あと1度頑張るとの心意気を頂戴し今年がフィナーレとなりました。参加女性陣から大ブーイングを受けたものの、その反応は嬉しいものでした。出来たら今後、カタチを変えて再出発したいとも考えています。その折は何卒よろしく願います。

で開催地が分かりますし、ランナーも楽しい。しかして東京の当初のゴールはお台場、ココどこ?です。2017年から東京駅前に。大阪マラソンも大阪城になりました。

写真に戻って、スタートラインである橋(上中下3段)を渡らせるのに1時間半かかります。この膨大な人をゼッケン・目視で判断するのは無理というもの。実は全員付けているチップでデータが記録されます。チップには地下鉄乗り放題などさまざまな特典も付帯されています。

Boston is very special! Why?

オリンピックに次ぐ127年という歴史を誇り、毎年4月第3月曜の祝日に開催されるボストンマラソンは世界中のランナーが憧れる大会です。参加するには公認記録クリアが必要なため「選ばれし者のマラソン」と称されます。

制限時間がないこと、ランナーに嬉しいさまざまなサポートがあることも特徴です。車椅子に乗る息子を父が押して走るホイト親子を記憶されている方もいることでしょう。初出場(1984)した際の好記録(!)を公認したところボストンらしい。2人はトライアスロンにも出場、その姿は世界中の障がい者を勇気づけ、スポーツに挑戦するきっかけになりました。

2013年には爆破事件が起き、以後、他の大会含め、厳しい警備体制が敷かれるようになりました。ボストンのユニークさの一つに優勝者を50年後の大会に招くというのがあります。1966年優勝者の君原健二さんは2016年に出場して完走! 瀬古利彦さんは日本人唯一2度優勝(1981、1987)しています。ちなみに私は2016(カンカン照り)、2018(ドシャ降り)、2020、2021はコロナで中止になり、昨年、3回目の記録は3:15:08でした。

名物レースディレクターの存在

各大会には必ず名物レースディレクターがいます。中でもボストンのデイヴィッド・マクグレイブレイヤーさんは10代のころは、かつてボストンでは認められていた山賊ランナー(非公認)。以後は公式に出場し現役を退いてから運営側に入った人。マラソン大会のことをよくよく知っている、その彼がやりたい大会にしているのですからボストン大会が素晴らしいはずがない。いつか長野に招いて話をしてもらいたいと思っています。

アクリルボードを取り払ってのわいがやサロン——当たり前前の時間・空間に感謝しました。

